

1 学校教育目標

○深く考え、自ら学ぶ人
 ○自他を尊重する心豊かな人
 ○心身ともにたくましい人
 人権尊重を基調として、社会の変化に対応した知・徳・体の調和のとれた人間性の育成を目指して、全教育課程において、「夢・挑戦・自立」をキーワードとした教育活動を展開する

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	将来への夢や目標をもち、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ○ 一人一人を大切にし、互いの良さを認め合い、個の能力を伸長できる学校 ○ あらゆる場面・機会をとらえ、心と体を磨き鍛え、豊かな人間性を育む学校 ○ 地域・保護者・学校、三位一体の総合力で生徒の育成を図る学校
○児童・生徒像	夢や目標をもち、自分で考え、判断・表現・行動し、課題解決できる生徒 ○ 基礎的・基本的な知識・技能と主体的に学習に取り組む態度を身につけた生徒 ○ 友情や思いやりの心を育て、自他を尊重する心豊かな生徒 ○ 行事や部活動・奉仕活動に積極的に取り組み、地域に感謝・貢献できる生徒
○教師像	主体的かつ的確な判断ができ、組織として迅速に動くことができる教職員 ○ 危機管理とサービスの徹底・厳守を常に意識できる教職員集団 ○ 新学習指導要領を踏まえ、積極的・意欲的に研修や授業改善に取り組み、自ら学ぶ姿勢で知識・視野を広げ、専門性を高める教職員 ○ 人間性豊かで、教員としての基礎基本を身につけた教員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

- ・全校生徒が落ち着いた生活を送ることができている。教員の熱意ある指導により学習指導、生活指導、生徒会、部活動など充実した学校生活が営まれている。
- ・全教員が統一した学びのスタイルを意識した授業改善に取り組み、少しずつ定着してきている。しかし区学力調査では、数学で通過率がやや上昇したものの国語と英語では大幅に下降してしまった。
- ・近隣特別支援学校との交流、近隣小学校との連携・交流、地域町会自治会行事へのボランティア活動に多くの生徒が参加した。さらなる充実を図る。
- ・不登校生徒や問題行動がある生徒が多い。関係機関との連携を図り、一人一人の生徒に応じた対応を組織的に考えていく。教育相談体制の充実を図るとともに教員の教育相談技術の向上を目指す。また発達障害等のある生徒について、共通理解を深め、個別の支援を行っていく。
- ・行事への保護者参加は増加している。しかし、授業参観・学校公開・保護者会への参加はまだ十分とは言えない。魅力ある取り組みについて今後も考え、工夫していく必要がある。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	小中連携	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題			達成度 ◎○△●		
学力向上		国語 55%・数学 55%・英語 50%※国語 6%・数学 5%・英語 15%アップ 年度末定着度確認問題の国数英の正答率 55% 12月生徒意識調査で「授業がわかる」85%、統一した学びのスタイル関連項目達成 80%	国語 55% 数学 51.7% 英語 53.8% ※国語 0、数学-3.3、英語+3.8 年度末定着度確認問題の正答率は 国語 53.7% 数学 45.4% 英語 49.2% 生徒意識調査「授業がわかる」86.6%、統一した学びのスタイル関連項目の達成 90.7%	数学が目標に届かなかったが、国語と英語は目標を達成した特に英語は目標を上回った。数学の学力定着に力を入れる。 年度末定着度確認問題は3教科とも目標を達成できなかった。2、3月の授業、放課後学習で分析結果を基に弱点・未定着部分の補充を図る。 意識調査の目標は達成できた。今後は各項目の内容が充実したものになるよう授業改善に努める。			△		
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善	全教科	日常の 授業観察 自己申告 前後	管理職・教科指導専門員等が日常の授業観察と観察後の指導・助言、自己申告面接、研究授業・研究協議を通して、授業改善を図る。	授業観察と自己申告面接 生徒意識調査	授業がわかる 85% 学びのスタイル 関連項目 80%	11月生徒意識調査結果 授業がよくわかる 86.3% めあてを示す 93.8% グループやペア活動がある 94.4% 考えを発表し合う 90.4% 振り返りがある 82.4%	調査結果は4月より上がっており、統一した学びのスタイルの授業は定着してきた。今後は振り返りをしっかり行い、学習内容の定着を図る。また自力思考や自力解決が円滑に行えるよう発問や指導の工夫、ICT機器活用により改善を図っていく。	○

2 継続・改善	朝学習	3科	毎日	各教科担当と学年教員 1週間の朝学習の取組を金曜日放課後に確認テストを実施し、学力の定着を図る。	小テスト	小テストで、全員が正答率70～80%以上の結果を出す。	国語の漢字、数学の計算、英語の基本文型等、基本の反復練習に取り組んだが、3～4割の生徒は結果を出すことはできなかった。	基礎学力の定着のため、基礎的な内容については反復練習を継続すると共に、家庭学習、自主学習の習慣を身に付ける指導を進めていく。	△
3 継続・改善	放課後補習 15特訓 教室	3科	水曜を除く毎日	教科担当+学年教員 1週間の朝学習の取組を金曜日放課後に確認テストで正答率70～80%未満の生徒に対して、次の週の放課後に、つまずいた箇所を個別に演習する。既習内容の復習をし、基礎学力の向上を図る。	小テスト 年度末確認問題(2月)	小テストで、正答率70～80%以上の結果を出す 年度末確認問題(2月)の国数英の正答率60%	対象を絞って学年体制で補充を行い、つまずいた部分を指導したが、低位層は結果を出すに至らなかった。中位層指導や生徒同士の教え合いを取り入れた。2月の調査の正答率は3科とも60%を下回り。目標値を達成できなかった。	低中位層の両方に対象を広げたため、生徒同士による教え合いも取り入れたが、教員に頼る部分が大きく、改善が必要。2月の結果を分析し未定着部分の定着が図れるよう授業や放課後補充、春季休業の課題等で取り組んでいく。	△
4 継続・改善	サマースクール	2, 3年 数学	7/22～25 8/27～29	教科担任 前半：前期前半のつまずきを解消 後半：夏休み課題と前学年の復習	9月振り返りテスト	9月振り返りテスト、正答率60%目標	平均正答率46.2%で4月より下回った。特に2年は-4.7%と大きく下がった。	低位層の正答率は上がったが、中位層が下がり、前学年の定着度の不十分が明らかになったため、放課後補充で中位層への指導も現在実施している。	●
5 継続・改善	サマースクール	2, 3年 国語 英語	7/22～25 8/27～29	教科担任 前半：前期前半のつまずきを解消 後半：夏休み課題と前学年の復習	9月振り返りテスト	9月振り返りテスト、正答率60%目標	平均正答率は国語60.0%、英語65.1%で、目標の60%を上回った。	平均正答率が目標値を達成することができた。4月に比べ正答率が上がった。特に1年と3年の英語の伸び率が高かった。今後の課題は60%に満たない生徒が4割いたので、放課後補充等で継続して学力定着を図ること。	○

6 継続・改善	サマースクール 数学特訓	1年 数学	7/22～ 25 8/27～ 29	教科担任 前半：前期前半のつまずきを解消 後半：夏休み課題と前学年の復習	9月振り返り テスト	9月振り返り テスト、正答率 60%目標	事後テストの正答率は65.8%だったが、8割の生徒の正答率が上がった。9月の振り返りテストの正答率は50.4%で4月より2.3%上がった。	事後テストで正答率が上がらなかった2割の生徒を中心に放課後の15特訓を利用し継続的に指導をしている。その結果12月の合宿後検証テストでは平均正答率が68%になった。しかし正答率が60%に満たない生徒も4割おり、さらに継続した指導が必要である。	○
------------	-----------------	----------	----------------------------	--	---------------	----------------------------	---	---	---

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自尊感情を育む		国調査「自分にはよいところがある」70%	「自分によりよいところがある」4月は70.4%だったが11月には67.2%に下がってしまった。	生徒一人一人が活躍できる場面を増やしていき、生徒同士互いに認めあえる環境を作る	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重教育の推進	校内意識調査「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」80%	道徳推進教師を中心とした全校体制による道徳教育の充実 全教育活動を通して互いを尊重し合う好ましい人間関係を築く	「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」94.1% 道徳の授業を通じて、自分の考えを發表したり、他の考えを共有したりする中で、互いの良さや自分の成長に気付けた。	人のよさに気付き、互いを大切にできるが、いじめやSNSトラブルもあったので、全教育活動を通して人権尊重教育を推進する。	○
キャリア教育の推進	区アンケート「夢や目標をもっている」75%	学校・学年行事等の体験活動の充実 ボランティア活動を通じた体験的理解 学活での系統的なキャリア指導	「夢や目標をもっている」4月は85.6%だったが、11月は79.7%に下がってしまった。 ボランティア参加者のべ106%（141人）1,2年生の参加が少なかった。	夢や目標をもち努力しているが、困難にぶつかるとう挫折してしまう。将来を見通せる取組や授業を通して、粘る強く継続できる力を養う。	△

教育相談の充実	校内意識調査「悩みを相談しやすい」80%	相談室（特別支援教室）の整備 教育相談・特別支援教育に関する研修 ケース会議の開催	学校評価アンケート 「悩みを相談しやすい」全体64.2% ケース会議を6回実施し、情報共有、個別対応策を検討した。	3年の割合が低く、1、2年も80%を下回った。日常的に相談しやすい環境を作る。	△
---------	----------------------	---	---	---	---

重点的な取組事項－3	小中連携
-------------------	------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学びの連続を意識した教育活動の推進	研究授業、出前授業等年10回実施	研究授業、出前授業等年10回実施	学びの連続性を意識し統一した学びのスタイルの授業改善が進んだ。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
研究授業	指導案検討、授業公開等年6回	授業力向上を共通のテーマに研究授業、指導案検討、研究協議	道徳授業公開、授業参観を2回実施した。5つの分科会に分かれ、統一した授業スタイルで指導案検討を2回・研究授業、研究協議を2回実施した。	先行実施の小学校の道徳の指導法や評価について学ぶことができた。学力定着指導員や教科指導専門委員から指導講評をいただき、授業スタイルの研究を深められた。	○
教員の交流	教育課題研修1回 相互授業観察、出前授業3回	共通の教育課題についての研修会 相互授業参観、出前の英語活動	区調査分析結果を共有し、今後の指導課題について検討し、授業改善や補充教室につなげた。外国語活動・英語で出前授業を3回実施した。足立スタンダードの伝達授業参観、協議会に参加した。	英語科教員の情報交換、共通理解、授業改善が図れた。伝達授業参観、協議会参加を通して、算数・数学科教員の交流、情報交換、共有が進んだ。	○
生徒・児童の交流	交流事業5事業	児童への学校説明会、部活動紹介、地域清掃などの企画・運営	6月に学校説明、部活動紹介、7月に夏季補充教室ボランティア、10月に陸上指導3回、6年生児童の白樺祭鑑賞を実施した。	児童・生徒の交流が図れたが、来年度新入生徒数が減少してしまった。次年度は、生徒会を中心にPR活動を推進し、新入生数を確保する。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・31年度区学力調査の通過率は、学校全体で国語 55% 数学 51.7% 英語 53.8% であった。通過率は各教科とも上昇したもの、3学年と1年数学は下降した。平均正答率では国語と英語は 55% を上回っているが、数学は 50% を下回っていた。低位層には基礎学力を、中間層には学力の定着を図る取組を実践していく。統一した学びのスタイルによる授業改善、朝読書、放課後補充と合わせて家庭学習を習慣化を推進していく。
- ・管理職による授業観察を週1回程度実施し、機会を捉えて指導を行った。国語と数学は月2回、英語は週1回、教科指導専門員による授業観察・指導を実施した。新規採用教員や経験の浅い教員の授業改善が図られた。
- ・基礎学力の定着を図るためのステップアップ検定を全校体制で2回実施することができた。再テストを含めて合格率はほぼ90%を超えた。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- ・道徳推進教師を中心に「考え、議論する道徳」の授業を全校体制で実施し、前後期2回、生徒の個人内における成長を評価できた。今後も継続すると共に、教育活動全般において、人権尊重教育を進めていく。
- ・不登校生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら家庭訪問、面談を繰り返し、粘り強く関わった。関係諸機関とも連携し、生徒情報や進路について共有できた。学年が進行する中で不登校生徒が増えつつあるので、はばたきルームの活用や教育相談の充実を図っていく。
- ・年間のボランティア活動の参加者数が昨年度より6%増加した。自己肯定感を育む上でも推奨していく。

重点的な取組事項－3 小中連携

- ・小中連携の授業研究、公開授業等年間6回実施した。教科別分科会による指導案検討や研究協議、情報交換・情報共有等の等の研修を行い、統一した学びのスタイルを実践することで相互の授業改善が進んだ。
- ・小学校外国語活動への中学校英語科教員の派遣、算数・数学科の足立スタンダード伝達授業への相互参加など交流機会が増えているが、日常的に意見交換や教科指導の相談ができる関係の構築を目指したい。
- ・部活動体験や連合運動会の陸上競技指導、夏季補充教室の手伝い等が広がりを見せている。今後も工夫しながら充実を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

花畑北中学校は「夢・挑戦・自立」をキーワードに、地域・保護者・学校の三者で力を合わせて、将来に夢をもち、それに向かい何事にも挑戦・努力し、自立できる生徒の育成を目指します。少人数だからこそできる一人一人に目の行き届いた指導、生徒に寄り添い一人一人を大切にすることを推進しています。全6学級という規模で、広い校庭、熱心な教員が丁寧に生徒の指導に当たっている面倒見のよい学校です。これからも本校に温かいご支援とご協力をお願いします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・一人ひとりの生徒に寄り添った、粘り強い教育活動に取り組むことができた。期限付教員や産育代教員と若手教員が多い中、統一した学びのスタイルによる授業改善が図られてきたが、授業力向上、生徒の学力向上に向けて、継続した指導の工夫、補充学習の充実が必要である。
- ・不登校生徒が多い。担任やスクールカウンセラー等による面談、家庭訪問を行い、関係機関とも連携しているが、学校復帰は厳しい。はばたきルームの活用も減少しており、家庭とのつながり、本人の意向に沿いながら、個々の状況に応じた対応を粘り強く進めていく。
- ・生徒一人ひとりが活躍できる場の設定、地域との関わりをもたせるボランティア活動の推進などさらなる充実を図り、生徒の自尊感情を高めていきたい。
- ・将来への夢や目標をもち、人の役に立ちたいと考えている生徒が増えているので、将来を見通した人生設計ができるよう、学校生活の中で自分の良さや力を発見し、自信をもってそれを活かせるような機会や場を設けていく。